



信頼 努力 協同

# 狭山台中だより

狭山市狭山台 4-26

04-2958-6791

令和4年12月 1日

第12号

学校教育目標

◎学び合う生徒

◎考えて行動できる生徒

◎高め合う生徒

## R4「全国」と「埼玉県」の学力状況調査の結果です

今年度4月、5月に行われた学力状況調査の結果をお知らせします。特に、県の学力調査は、昨年度1年間の伸びを示すものです。「学力の伸び」は、子供たちの1年間の学習成果であるとともに、教育委員会や学校の取組の成果でもあります。学校として、これらの調査結果を謙虚に向き合い、教育計画等を見直し、改善を図って、生徒への学習指導の充実に努めてまいります。結果の概要を保護者並びに地域の方々にお示しすることで、生徒の学習状況と本校の取組についてご理解をいただき、今後も引き続き狭山台中学校の教育にご協力ご支援をいただきたいと存じます。

### ○全国学力学習状況調査 結果について（4月19日実施） 中学3年生対象

#### 1 調査の目的

本調査の目的は、「義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立て、さらに、そのような取り組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。」（実施要領より）ことです。以下の考察は、平均回答率からの考察であり、本来は、生徒一人ひとりの課題を明確にし、課題解決のために利用すべきものであると捉えています。

#### 2 全国・本校の平均正答率及び正答数の比較 調査数154/184人（84%）

第3学年 R4	国語		数学		理科	
	平均正答率	平均正答数/14	平均正答率	平均正答数/14	平均正答率	平均正答数/21
全国	69	9.7/14	51.4	7.2/14	49.3	10.4/21
埼玉県	70	9.8/14	52.0	7.2/14	49	10.3/21
狭山台中	67	9.4/14	45.0	6.3/14	46	9.7/21

#### 3 考察

【国語】・全国平均正答率より2ポイント低い。問題数にすると0.3問の差である。ほぼ全国平均レベルの力である。どの分野も平均的にできており、「書くこと」は、平均以上である。しかし、問題文の読解に課題が見られ、正しく読み取る訓練が必要である。

【数学】・全国平均正答率を6ポイント下回っている。問題数にすると0.9問の差である。直近の学習項目は比較的よいが、計算を含む「数と式」や「関数」の分野で課題が見られ、定着していないことが伺える。無回答率もやや高くなっている。14問中、正解が0~4問の生徒が、約11.6%（県7.6%）おり、基礎基本が定着するよう支援する。また、上位層は、より思考力をつけるよう支援したい。

【理科】・全国平均正答率を3.3ポイント下回っている。問題数にすると0.7問の差である。比較的基礎・基本事項については良い結果だが、事象を比較し、関連づけて説明する力が弱い。思考力を高めるための話し合いの場面を増やし力をつけたい。

## ○埼玉県学力学習状況調査 結果について（5月10日実施）1年生～3年生対象

### 1 調査の概要

埼玉県教育委員会は、平成17年度から学力・学習状況調査を実施してきましたが、平成27年度から内容を一新した「埼玉県学力・学習状況調査」を行っています。これは、子供たちが現在の實力を知り、「どれだけ自分が伸びたか」を実感し、自信を深めていくことを大切にしたいとの考えで行われているものです。そして、自信を持った子供たちが、自分をさらに伸ばし、自分のよさを活かしていけるような教育を進めていきたいと考えています。埼玉県の学力調査は、「学習した内容がしっかりと身に付いているのか」という今までの視点に、「一人一人の学力がどれだけ伸びているのか」という視点を加えることで、子供たちの成長していく姿が見える、全国でも初めて作られた調査で、注目されています。埼玉県学力・学習状況調査で示す、子供の「学力の伸び」と「教育委員会や学校の取組の変化」の関係を検証することで、今まで以上に取組の効果を確かめることができると考えています。（県HPより一部改）

### 2 埼玉県・本校の平均正答率と学力レベル及び昨年度からの伸び

R4		1年		2年			3年		
		国語	算数	国語	数学	英語	国語	数学	英語
埼玉県	平均正答率	58.8	57.7	57.1	52.7	59.0	56.3	57.1	55.9
	レベル平均	8C	7B	8B	8C	9B	9C	8A	10B
	前年からの伸び	+2	+3	+1	+2	—	+2	+2	+3
狭山市	平均正答率	59.3	58.4	56.9	54.3	59.0	55.1	57.0	52.8
	レベル平均	8C	7A	8B	8B	9B	8A	8A	10C
	前年からの伸び	+2	+1	+1	+3	—	+1	+1	+3
狭山台中	平均正答率	59.4	59.6	55.9	56.0	61.1	54.4	52.7	50.6
	レベル平均	8C	7A	8B	8B	9A	8A	8B	9C
	前年からの伸び			+1	+2	—	+1	+1	+2
調査数		159/162人(98%)		194/212人(92%)			174/184人(95%)		

### 3 考察

- 【1年生】国語 平均正答率は、県平均より0.6ポイント高い。県平均と同程度の学力レベルとなっている。どの分野も平均的によくできている。文法など言葉の使い方にやや課題がある。
- 算数 平均正答率は、県平均よりも1.9ポイント高く、**県の学力レベルよりも1段階高い**。どの分野も平均的によくできている。特に、「数と計算」や「図形」分野が良くできており、全体的に基本的な力が身についている。
- 【2年生】国語 平均正答率は、県平均よりも1.2ポイント低いが、レベルは県と同程度である。「読み取り」は比較的よくできているが、文法など言葉の使い方にやや課題が見られる。
- 数学 平均正答率は、3.3ポイント高く、**県の学力レベルよりも1段階高い**。県の平均同様2段階伸びている。どの分野も平均的に良くできている。特に計算などの「数と式」や「関数」の分野が良い。
- 英語 平均正答率が2.1ポイント高く、**県の学力レベルよりも1段階高い**。どの分野も平均的に良くできており、基礎的な力が身につけている生徒が多い。
- 【3年生】国語 平均正答率は、1.9ポイント低い。学力レベルは県より1段階低い。我が国の言語の分野がやや低かったが、その他はおおむね平均のレベルである。
- 数学 平均正答率は、4.4ポイント低く、学力レベルは県より1段階低い。「データの活用」は県レベル以上だが計算を含む「数と式」「関数」に課題が見られる。やや無回答率が高い。
- 英語 平均正答率は、5.3ポイント低く、レベルは県より2段階低い。昨年からの伸びも県より1段階低くなっている。基本的な「知識・技能」に課題が見られ、英語の「読み・書き」について訓練が必要である。